

小林市議会「市民との意見交換会」地区別意見交換会【報告書】

開催地区	栗須小校区	担当班	議員名	担当
参加人数	40人		◎杉元 豊人	司会進行
開催日	平成26年5月23日（金）		森田 哲朗	活動報告（総務文教）
開催時間	午後7時～午後8時50分		深草 哲郎	活動報告（経済産業）
会場	コミュニティセンター		鎌田 豊数	活動報告（市民厚生） 記録・報告書作成
その他			下沖 篤史	音響・資料準備

◎班代表者

意見交換会の内容		□市民の意見	■議員の意見
テーマ①	将来の地域コミュニティの姿・形		
【意見交換の概要】			
□ 野尻は須木に比べて区長が少ないのではないかな。			
□ 30 年間続いている公民館活動を充実すべきだ。そのためには、若きリーダーの育成やリーダーの資質向上になるような取り組みを行政で行うべき。			
□ 合併と同時にロードレース大会やミニバレー大会、校区ごとの運動会が無くなった。スポーツ振興も大事なので復活してほしい。			
□ 老人会が計画的に「きずなの拠点にしよう」と 3 年前から活動している。国道沿線にボランティア活動で花を植えている。			
□ 栗須小の校歌にある「かすみが丘」や「あおぐ古城」など、区の宝がなくなりつつある。地域の宝発見がコミュニティづくりでも大事ではないかな。			
□ 学童保育の見守り隊が不足し、高齢化している。現場の状況をみて、対策を考えてほしい。			
□ 栗須小の図工室が空いている。整備してコミュニティの場として使えるのではないかな。安全面も配慮し、検討してほしい。			
■ 一般質問や委員会審査を通して、地域の意見をより強く伝えていきます。また、必要に応じて委員会で調査対応します。			
【行政の主な取組】			
校区協議会設立モデル事業費 平成 26 年度当初予算：約 1,192 万円			
地域のあらゆる団体が連携した新たな地域コミュニティ（きずな協働体）を設立し、地域住民総意のもと地域課題の解決に向けた活動を支援する。			
モデル地区（須木・野尻地区・細野中学校区）並びに新たな導入地区におけるきずな協働体設立に向けた支援を行うとともに、設立後の安定的かつ継続的な運営を支援するため、事務局員の配置や事務所の設置に係る必要な資金の交付を行う。			

テーマ②	農業の振興
【意見交換の概要】 □ 加工センター建設の構想はないか。加工品の研究をし、年間を通じて販売できたら収入も安定する。現在のように季節産品を一時的に販売するだけでは農家の収入は安定しない。新しいブランドになる。新商品を研究・開発する部門を設立してはどうか。 □ 西諸地区の農業所得は低い。メロン、マンゴーも燃料費アップや消費税アップで利益がでず、きつい。何とか所得の上がる方策を考えてほしい。頑張って汗をかいた見返りがないとやっていけない。 □ T P Pは避けて通れない。1次産業と2次産業を融合し、地域一体となって農家を盛り上げてほしい。 □ 西諸は農業のまち、特徴のある農業を先駆けてやれないか。 ■ 大変重要なテーマです。議会でもさらに一般質問や委員会審査の中で強く訴えています。 【行政の主な取組】 地域経済循環創造事業費 平成26年度6月補正予算：4,190万円 加工により付加価値の高まる農産物（マンゴー等）、特に規格外品の多くが地域外へ流出し、有効活用が図られない状態にある。農産物加工場の建設を支援することにより、地域資源の活用による地域内6次産業化を推進し、高付加価値商品の開発及び出荷、地域内経済の循環を図る。 国の交付金事業を活用し、農産物加工場建設及び機械設備導入の初期設備費用の一部を助成する。	
<u>自由意見の交換</u> □ 議会傍聴に行くが駐車場がないので工夫すべき。 □ 国道268号線は太陽光発電設備が花盛りだ。集中豪雨の時に多量の雨水が国道に流れ出し、交通事故の原因にならないか調査してほしい。 □ 農家民泊を引き受けて頑張っているが、協力農家を増やしてほしい。 □ コミュニティバスの運行表を全戸に配布しているが、印刷代の無駄である。バス停かバスの中に吊り下げておくだけで十分ではないか。 □ 先日の火災発生時、80人の消防団員がさっと集まって、すぐに消火した。消防団員の年報酬、出動費を上げられないか。 □ 栗須小の木の剪定を学校が教育委員会に要望しているが、どうなっているのか。 □ 市立病院は動線が長く、病人にとってはつらい。改善してほしい。 □ 市職員の不祥事は全く恥ずかしい。かつて野尻町役場では一度もなかった。対策をどうするか。（市長が来ていれば、市長に聞きたい。） □ 小林の水資源、森資源を外国資本から守る必要があるのではないか。 ■ 自由意見については、全議員で情報を共有し、今後、一般質問や委員会審査の中に活かしてまいります。	

□ 市立病院の医師確保など今後の対策はどうなっているのか。

■ 医師確保については常勤医師の確保は難しいものの、非常勤医師の派遣や研修医受入など鋭意努力しています。また、平成 25 年度から、日常生活動作能力の向上による寝たきり防止や在宅復帰の推進を目的に、休止していた病棟を再開し、回復期リハビリ病棟導入、平均在院日数の短縮や病床利用率の向上による経営改善等に取り組んでいます。

議会活動報告への意見 ※特になし